

沖縄 数久田ダム建設工事にて「ドロンパC」採用

概要

沖縄県では、赤土の海洋への流出によって、さんご礁が大きな被害を受けています。

土地改良事業等を行う場合、土砂の流出防止対策として、土砂溜マスや沈砂池が作られています。赤土の粒度は非常に小さく、沈降性が悪いため、従来の手法では流出を止めることができません。

そこで数久田ダムでは、工事に伴って発生する濁水を天然水処理材「ドロンパC」を用いて凝集沈殿処理し、放流しました。

成果

	PH	EC(mS/m)	濁度
原水	8.1	70.7	1000
処理水	8.1	72.3	9.3

工事現場に沈砂タンクおよびユニット型濁水処理装置を設置し、濁水処理を行いました。

写真からも分かるように、ドロンパCは赤土濁水に対し、非常に良好な凝集効果を発揮しました。

また、処理後の水は、pH、ECともにほとんど変化がなく、濁度だけが減少しています。

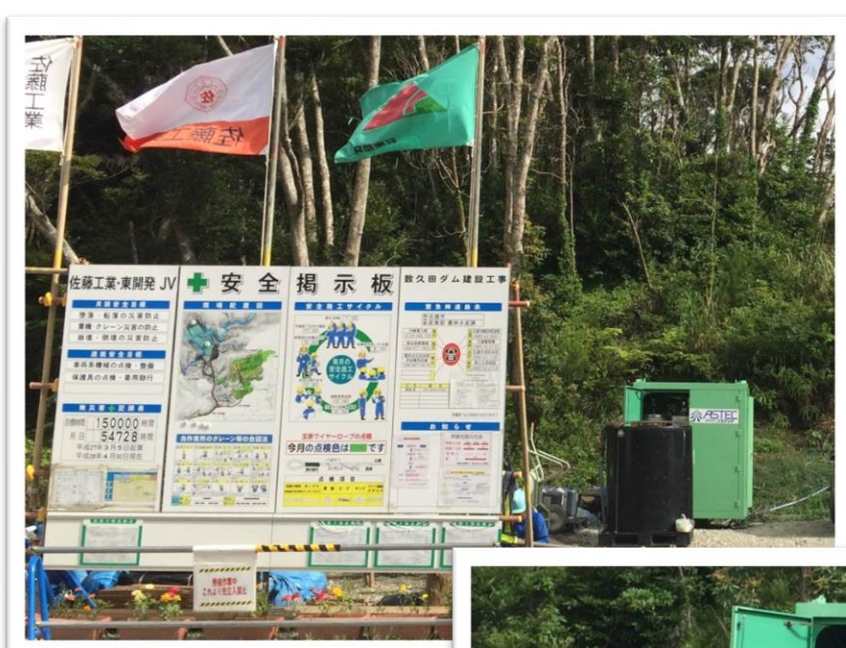


赤土で濁った河川の様子
(内閣府 政策統括官(沖縄政策担当)HPより抜粋)



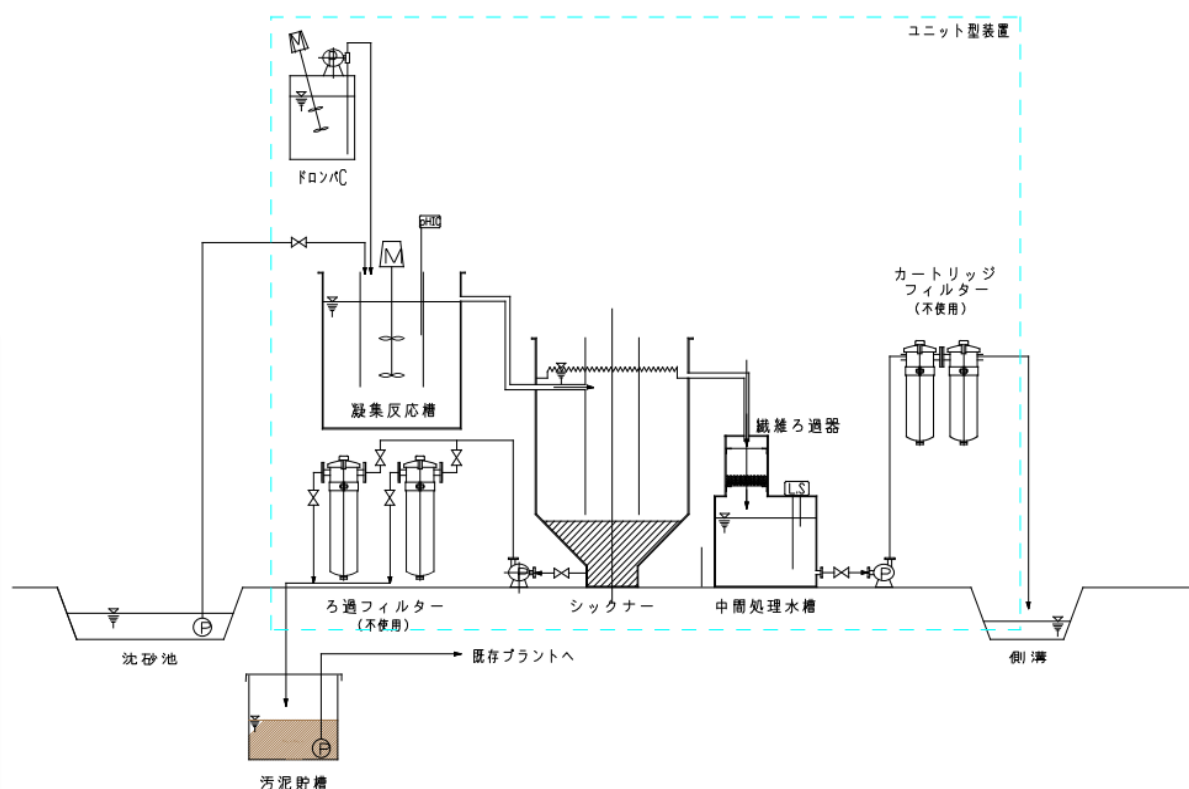
凝集効果
抜群!

汚染水中の汚濁物質を効率良く凝集するため、従来の天然系凝集剤より使用量が少なく済み、低コストでの処理が可能!



施工現場状況

装置全景



濁水処理装置フロー